

## 令和 8 年度第 1 回水道水質検査法検討会 議事要旨

### 1 日時

令和 8 年 8 月 6 日（木）13：30～18：00

### 2 場所

対面方式とオンライン方式のハイブリッド会議

対面会議会場：国立医薬品食品衛生研究所

### 3 出席者（敬称略）

委員 内山奈穂子（座長）、今中壮一、小坂浩司、小林憲弘、鈴木俊也、中村弘揮、  
林幸範、広木孝行、峯岸俊貴、渡部祐介

事務局 東利博、熊澤正朗、鈴木雅斗

（以上、環境省水・大気環境局環境管理課水道水質・衛生管理室）

### 4 議題

（1）標準検査法の改正等について

### 5 議事

#### ○座長の選出

国立医薬品食品衛生研究所生活衛生化学部の内山奈穂子氏が座長に選出され、承認された。

（1）標準検査法の改正等について

#### ○農薬類の検査方法の検討について

令和 8 年度第 1 回水質基準逐次改正検討会において、農薬類の使用実態や検出実態等を踏まえ、分類の見直しを行っている（令和 8 年 8 月 19 日開催の水質基準逐次改正検討会でその方針を決定）。これを受け、水道水質検査法検討会（以下「本検討会」という。）においては、新たに対象農薬リストに掲載される項目の検査方法について検討し、「水質基準に関する省令の制定及び水道法施行規則の一部改正並びに水道水質管理における留意事項について」（平成 15 年 10 月 10 日付け健水発第 1010001 号）における別添 4 水質管理目標設定項目の検査方法に追加する方針が提案された。また、本検討会で令和 5～6 年度に検討を進めていた農薬類の検査方法の統合、標準品を使用しない農薬類の検査方法についても併せて検討を進める方針が提案された。いずれの方針も案のとおり了承された。

#### ○ヘッドスペース-GC-MS によるシアン化物イオン及び塩化シアン分析法

バリデーション試験結果が報告され、妥当性評価ガイドラインの目標値を満たしていることを確認したが、現行のシアン分析（「水質基準に関する省令の規定に基づき環境大臣が定める方法」（平成 15 年厚生労働省告示第 261 号）（以下「告示法」という。）別表第 12 イオンクロマトグラフ・ポストカラム吸光度法）と分析機構が異なることから生じる測定値の差異などについて、さらなる検証が必要と判断され、次回以降に引き続き検討することとなった。

#### ○固相抽出-LC-MS/MS-ESI 法によるフェノール類分析法

バリデーション試験結果が報告され、妥当性評価ガイドラインの目標値を満たしていることを確認し

た。本法を告示法として追加する方針が了承され、今後、告示法の文案を検討することとされた。

○水道用資機材等の材質に関する試験項目の LC-MS/MS 一斉分析法の検討について

「水道施設の技術的基準を定める省令」（平成 12 年厚生省令第 15 号）及び「給水装置の構造及び材質の基準に関する省令」（平成 9 年厚生省令第 14 号）において溶出基準が定められている物質を対象とした LC-MS/MS による一斉分析法については、本検討会で令和 7 年度から検討を進めてきた。今後、対象物質の毒性評価値に留意しつつ検討を進める方針が提案され、案のとおり了承された。

○LC-MS/MS による PFOS 及び PFOA の直接注入分析法

バリデーション試験結果が報告され、妥当性評価ガイドラインの目標値を満たしていることを確認したが、一部の結果においてクロマトグラムのピーク形状が良好でないなど、機器の条件によっては LC による分離が適切に行われていない可能性等が指摘された。また、濁度が比較的高い水道水にも適用可能かを確認する必要があるとされ、次回以降に引き続き検討することとなった。

○誘導体化-LC-ESI-MS/MS によるフェノール類の直接注入分析法

今後、前処理に使用するリン酸緩衝液や誘導体化試薬について検討した上でバリデーション試験を行うことを確認し、次回以降に引き続き検討することとなった。

○積分球式光電光度法による濁度の算定について

現行の告示法別表第 41 積分球式光電光度法で想定している濁度の算定方法（「散乱光量／（散乱光量＋透過光量）」）に加え、「散乱光量／透過光量」による算定方法を明記する提案があった。本件については、算定方法が適切であるかを確認すればよいことから、バリデーション試験に参加する機関は少数でよいこととされた。今後、バリデーション試験を行い、次回以降に引き続き検討することとなった。

以上